

桜陽高校だより

卒業生に贈る

校長 笈川 巧



(校訓)

賢く 強く 豊かに

(学校教育目標)

- (1) 研學に努め、知性を錬磨する。
- (2) 環境を整え、公共心を涵養する。
- (3) 責任を重んじ、道義心を涵養する。

冷たい冬の風が吹いていた小樽の街においても、春が近いことが一日と感じられるようになり、いよいよ卒業生の門出の日を迎えました。卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。そして、この三年間本校の教育活動にご理解とご協力を賜りました保護者の皆さまにも心からお祝いと感謝を申し上げます。

さて、ここ数年「人生百年時代」という表現をよく目にするようになってきました。元々はイギリスの学者が提唱したのが始まりで、長い老後に備えて長期的な視野に立つて人生設計を見直そうと提唱されたようです。百年の人生となると、働く期間が長くなるのは予想されるところですが、働き方や老後の暮らし方、価値観も変わっていくに違いありません。皆さんが人生百年の折り返し点である四十代から五十代になる頃には、社会の変化に対応しながら第二、第三の人生に踏み出していくために、大

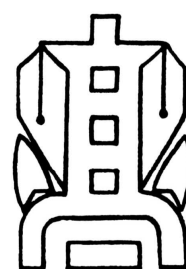
第102号

令和3年

3月1日発行

目次

- p1 学校長から
p2 3年次から
p3 生徒指導部から
p4~5 退職者から
p6~8 部活動報告



地域の人々のために尽力し、町の礎を築いたといわれています。

今より寿命がはるかに短かったであろう時代に生きたこの偉大な先人の生き方は、新たな知識や出会いを求める好奇心や意欲、そして諦めない気持ちを持つことで何歳になっても新たなことに挑戦できる可能性があることを教えてくれているように思います。蒔いた種が花開き、実を結ぶチャンスは一度だけではないような気になってきませんか。そう考えると、私も皆さんも、まだまだ発展途上であり、人生の楽しみはこれからということになります。高校卒業までの人生に比べると遙かに長いこれからの人生においては、失敗や挫折があつて当たり前だと思えます。何度でも新たな種を蒔いて育てる気概を持って、長い人生を生ききりましょう。

結びになりますが、これまで本校の教育活動にご理解とご支援を頂きましたPTA、桜陽会をはじめ地域の皆さまに心より感謝申し上げますとともに、皆様のご健康を心よりご祈念申し上げます。

『最後の挨拶（保護者向け）』

第七十三期生年次主任 若林 理一郎

元号が平成から令和に替わり、いわゆる「コロナ禍」により社会のあらゆる活動が制限を受けるという激動の時期に、第七十三期生二一八名は、桜陽での三年間の高校生活を終え、卒業を迎えます。

同時に、我々六名の担任団もその任を終えることになりました。

この年次は、先に加えて、思考力や表現力を問う新傾向の「共通テスト」入試、英語の外部認定試験、Japan e-Portfolio、基礎学力テスト等々、新入試制度の初年度の受験生として、大きな変化への対応に迫られました。

しかし、土壇場で問題点や舌禍が重なり、結局残ったのが思考力を問う新傾向の入試だけでした。ただ、生徒だけでなく、我々担当教員も大きな負担がかかり、新たな指導の追加だけでなく、内容や方法を二転三転せざるを得ない場面も度々でした。そのような状況下で、生徒は大いに成長しました。

入学当初は、当然のことではありませんが、桜陽の伝統といえるものを何も背負うことなく、説明したり指



導したりするが定着せず、本当に三年間で大きく成長して卒業できるのか不安でした。しかし、学習や経験、時間を積み重ねていく中で徐々にそれらを自分のものとして身につけていき、最後には三年生、受験生といえる姿までに成長したと思います。

これは、今だからいえることです。一年次から模試の成績を見てきたのですが、過去年度と比較して入学当初からしばらくは芳しくありませんでした。しかし徐々に成績を向上さ

せ、最後の最後になって他の年次と遜色のない状況になってきました。

日常生活にも同様の状況が伺えます。最初は、廊下ですれ違っても素通り。社会人としてやっていけるのかと思いました。しかし、日常の指導だけでなく、部活動や学級での生活を通じて自然に挨拶をするようになりしました。また、桜陽祭や体育大会などの行事の度にちよつとしたトラブルが起こるのですが、おそらく大半は自分たちで腹藏なく話し合う中で自己解決し、自力で乗り越えられるようになりました。一番成長を感じたのは、コロナ禍による休校明けに、おそらくそれぞれに心に重たいものを背負いながらも、大半の生徒がそのようなことを感じさせず、明るく元気に登校してきたことです。受験期である今でも、これには大きな変化はありません。

そういえば、新入試に対応して、この年次では「振り返り」を重視しました。科目選択や進路学習で調べたり考えたりしたことを「振り返り」として、とにかく「書く」ようにしました。「書く」ためには、自分で「考え」て、それを自分なりに「言語化」しなければなりません。そのような機会をとにかく多く設けました。その結果、あくまで私の実感ですが、今までの生徒に比べて、「わからない」「書けない」ことが



本当に少なかった気がします。

いろいろと私なりに感じた生徒の「成長」を実例をもとに記してきましたが、保護者の皆様との関わりも少し触れておきたいと思います。それは、「保護者懇談会」の開催です。

コロナ禍で三年次には開催できませんでしたでしたが、一、二年で計四回実施しました。参加数は、全体で見ればごく少数でしたが、逆に内容の濃い意見交換ができ、その後の指導にも大いに役立てることができました。三年生で開けなかったのは残念ですが…。

最後に、この三年間、保護者の皆様の暖かいご支援、ご協力があったて何とかやってこれました。心より感謝とお礼を申し上げます。

今後の皆様のご多幸をお祈りし、年次主任としての挨拶に代えさせていただきます。

『体育祭と生徒会執行部』

栗原英樹

このような形でPTAの皆様にご挨拶させていただきますのは初めてとなりますが、今年度の異動で本校に赴任しました栗原英樹と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。昨年度末までの5年間は、岩見沢西高校に勤務していましたが、その前の十五年間は小樽潮陵高校勤務でしたし、二人の息子たちもそれぞれ小樽市内の保育所、小学校、中学校、高校に通っていました(います)ので、皆様や皆様のご家族とすでにどこかで会いましたことがあるかもしれません。ご来校の際など、私の顔にピン!ときたら、一声かけていただければ幸いです。

さて今回は、「体育祭」について、生徒会担当として書かせていただきます。本来であれば、生徒会の主担当であり、日頃から誰よりも生徒会執行部の生徒たちに寄り添い、「体育祭」実施にあたって最も尽力した千田拓也先生が適任なのですが、勤務時間を大幅に超えて多くの時間を生徒会活動や部活動に費やしている千田先生に、これ以上の負担をかけるのは申し訳ないと思い、私が引き受けさせていただきます。次第です。

本題に入りますが、そもそも、年度当初から「コロナウィルス感染防止対策」が全国的なスローガンに掲げられる中、非常事態宣言も出されて、全国の小・中・高校が休校となり、「高体連」、「高野連」、「高文連」の大会のほとんどが中止となりました。また休校明けも、9月末までは「学校祭」や「球技大会」などの行事を見合わせるようにとの通達があり、三年生にとつては高校生活最後の晴れ舞台、そして思い出作りの場が次々になくなっていききました。そんな状況下で、生徒会執行部は、なんとか全校生徒で楽しめるような行事が出来ないかと検討を重ね、例年行っている「球技大会」に「運動会種目」と「学校祭」要素を加えた「体育祭」を立案したのです。しかし問題は、本校の体育館で実施する場合、密を避けるために、試合の応援や観戦は当該クラスのみに制限せざるをえず、全校生徒で楽しむという目的が達成できないことでした。ところがその時、PTA役

員の方から「それなら、小樽市の総合体育館を使ったら良いのではないか?」との助言をいただき、希望の光が見えま

た。そこで、職員会議での議論を経た上で、生徒会執行部は、一日目に小樽市総合体育館でバレー、バスケの「球技種目」、二日目に玉入れ、大玉転がし、長縄

跳び、クラス対抗リレー、部活動対抗競技の「運動会種目」、さらに、二日目の競技開始前には「クラスアピール合戦」、そして体育祭終了後には、「スカイランタン」と「花火」で「後夜祭」を企画したのです。しかし、企画から実施までには、さらなる時間と労力が必要でした。特に運動会種目については初めての実施であり、各競技のルール作りや道具の製作、調達から始め、実験も行いました。連日夜遅くまで話し合いと作業が行なわれ、何よりも執行部の生徒たちの健康が損なわれないかが気がかりでした。保護者の皆様にも、大変ご心配をおかけしたのと思います。この場を借りてお詫びいたします。そんな執行部の生徒たちの頑張りが、ついに実を結ぶ時が来ました。十月一日、小



樽市総合体育館には、桜陽高校の生徒および教員、総勢約七百人が集結し熱気に包まれました。もちろん、コロナ感染予防対策のため、2階の観客席は左右前後を空け、アリーナのコート周りにも一定間隔を空けて応援席を設置するなどしました。「プレー」中の選手以外はマスクを着用する、「応援は大声を出さずに、代わりに拍手をする!」などの規制の中で試合、応援、観戦でしたが、白熱したプレーを目の当たりにして、興奮を抑えるのは実際大変でした。翌十月二日、前日の雨のせいで、サブ・グラウンドの水抜きが必要となり、開始が三十分以上遅れましたが、「クラスアピール」で楽しく和やかな「お祭り気分」が高まりました。運動会種目も予想以上に好評で、「小学校や中学校の時以来、久しぶりにやつて、懐かしさと新鮮さが楽しめた」と事後アンケートに書いていた生徒がたくさんいました。特に、クラス対抗リレーでは、走者の真剣な走りと観客の熱烈な応援が呼応して、最高の盛り上がりを見せました。閉祭式では、総合順位が発表されましたが、上位入賞したクラスはもちろん、入賞しなかったクラスも、満足感に浸っているように見えました。二日間、わたって、全校生徒が同じ場所、同じ時間、同じ場面を共有できたことが、何よりの喜びだったと思います。そして、

日没後、メイン・グラウンドに会場を移して行った「後夜祭」。コロナ収束を願い、また、体育祭の成功を祝って、スカイランタンを掲げ、花火を打ち上げました。

スカイランタンは紐で固定し、ゴミにならないように回収する予定でしたが、連絡不足で紐をほどいてしまったクラスが多く、空高くどこかへ飛んで行ってしまいました。本音を言えば、あれはあれで綺麗でしたが、地球のどこかにランタンが着地（着水）し、ゴミとなってしまうことについては世界の皆さんにお詫びいたします。頭上間近に咲いた花火は、とにかく綺麗で大迫力で、心に残るものでした。できれば、来年以降も続けられるといいなと思います。

体育祭の頃は小康状態に見えた感染状況が、それ以降拡大を続け、今では北海道を含め日本全国で悪化している状況です。感染防止のために私たち一人一人が出来ることとして、マスクの着用や手洗い、消毒などを地道に続けて、一日も早くコロナ禍から脱し、また以前のように学校行事や部活動に思い切り取り組み、楽しめるようになることを、切に願うばかりです。

退職される三人の

教職員の方から

桜陽高校の思い出

坂上 千鶴

桜陽高校ではたくさんの方の出会いがありました。取り分け印象に残っていることを記したいと思います。

◆ 峯山富美先生

二〇〇六年、桜陽高校創立百周年記念誌に峯山先生から寄稿して頂くことになり、私が担当者になりました。峯山先生は（小樽）高女のご出身で、小樽のために多方面に渡りご尽力された方なので、執筆をお願いすると大変な仕事に当たったものだと思いましたが、お仕事が詰まっている中、先生は優先して原稿を上げて下さいました。仕上がった原稿は先生自らが当時のグラウンドホテルまでお持ち下さり、お昼を御馳走になりながらの打ち合わせとなりました。運河存続運動のお話を伺うと、「まあ、そんなこともあったわねえ。」と穏やかに頷き、少しも偉ぶらないのです。高女時代の思い出や教育についてもお話し下さり、「あなた、女子は勝負しないよね。物事には真正面から向き合ってね。」と

色々教えて頂きました。飾らない、優しいお人柄の先生にはその後も随分と良くして頂きました。

◆ 大角宗薫先生

それまで、部活動は水泳部を担当していましたが、担当する教員がいないと言うことで、急遽、茶道部に配置されました。講師は（小樽）高女専攻科出身の大角先生がされました。先生の（茶道）教授法は生徒をとっても大切にしました。「皆さん、茶道は楽しいことが一番ですよ。そこから皆さんに興味関心を持って頂き、更に茶道を続けてほしいわ。」と笑顔でお話し下さるので、生徒は伸び伸びと修道に励み、よく先生に質問もしていました。優しく丁寧なご指導に感謝の意を述べても、「私は生徒さんの先輩ですから、ここに来ると高女時代に戻ったようで嬉しくて仕方がないのよ。若い人たちに囲まれて幸せだわ。」と話されていたのが懐かしき思い出されます。二〇一六年、桜陽高校創立百周年ではグラウンドパーク小樽でお茶席を担当し、日頃の練習成果を披露できた事は良い思い出になりました。桜陽高校茶道部は大角先生のお心に導かれ、現在も先生のご意思をしっかりと受け継いでいます。

◆ PTA研修部

分掌でPTA研修部を担当しました。バス研修や講演会などを保護者の方と教員と一緒に企画運営する業務ですが、何も分からずに、研修部の方々には大変にお世話になりました。保護者の方は、皆さんお仕事をされていらっしゃいますので打ち合わせの部会は六時半からの始まりになります。毎月よく集まって下さいました。PTA研修部は「子どもを（もっと）よくしたい」、「桜陽高校を（もっと）よくしたい」という保護者の方々の熱意に支えられていました。皆様と一緒に活動できた事は教員生活の大切な思い出になりました。



pixta.jp - 53839306

It's a small world, isn't it?!

増子 志菜乃

「世界は小さいね。(世間は狭いもんだねえ)」…と、思いがけない偶然の一致や、出会いの時の一言だ。

三十八年前、「…教壇に立つ…大丈夫か私？」上川郡鷹栖町の職員室で自問自答していた自分、今もあの時の不安と恐怖をまざまざと思い出すことができる。頼りなくふがいなしい自分は、先輩教員たちとにかく恵まれた。叱咤激励の指導を受けながら、それから三年もたつてようやく一年二組の「担任の先生」になった。(最後の年をお願いしてまた一年二組を担当させてもらったのだ！感謝！)この時の一年一組の担任、種村武先生、この先生がなんと小樽桜陽高校の卒業生だった！赴任が決まって、この偶然の巡り合わせを報告すると「私の後輩たちのためにちゃんとやれ！」と檄を飛ばしてくれた。

また、数年前、カナダのバンクーバーへのひとり旅を楽しんでいたとき、街中のギフトショップで買い物していると、女性店員が「He says he knows you.」と別の客を接客中の日本人らしき男性を指さして言うのだ。ん…？…とよく見ると、

「あれはもしかして…〇〇君！？」とにかくIt's a small world! 十年近く前の卒業生だった！聞けば、

「自分の進路に迷って、カナダに留学してみたけど、やっぱり違うってなって…とにかく働かなきゃ、働くしかなくなつて…」と照れながら話してくれた。私はなんだかとても嬉しかった！というのも、高校時代はちよつとネガティブ…そんな彼が日本を飛び出して「Hey」しているのだ、失敗したってちゃんと道を拓こうとしている！「迷え！少年！」と檄を飛ばして、二人でBig Smileの記念写真を撮った。

「袖振り合うも多生の縁」(私達は生まれ変わって次の一生を生きて、前世とか後世の存在を信じてることわざ)は本当なのかも！？と思うことがいくつもあつた。生きていると不思議なことがいっぱい！What a wonderful world! だった。たくさんさんの出会いがこの仕事の宝物なのです、今、そう思います。「なぜ巡り会うのかを私達はいつも知らない。」名言！

これまで出会った数え切れない生徒のみんな、その親御さん、先輩、後輩の先生たち、みんなが私の先生だった。たくさん教えてくれてありがとう、迷惑かけました、ごめんなさい、ただ、ただ、感謝しかないで

す。
でもまだまだ、お楽しみはこれからだ！

To be continued … つづく



感謝を込めて

功刀 由美

平成十九年度に赴任してまいりました。そのときは前年度に百周年を迎えまた校舎も建て替えてびかびか、校舎周りはまだ舗装されておらず、じやりじやりと道を踏みしめていた状態でした。

桜陽高校での思い出と言えば最初に出て来るのは学校祭でしょうか。三日間、生徒も教員も一丸となつてクラスや部活の出し物に取り組み、一日目の仮装行列などPTAの皆さま

まの全面的なご協力のもと市内を練り歩き、暑くてへろへろになりながらも充実した笑顔で学校に戻ってくる生徒たちの姿が忘れられません。最終日の後夜祭での最初のセレモニー、弓道部の火の付いた弓の打ち込みなど、疲れた頭で、ぼーっと見ていたのに「おお！ かつこ良い！」と感動していました。

私は、図書館業務担当なのですが、書庫に結構古い資料が残っていることにびっくりします。何回か、研究者の方から何か関連資料はないかという問い合わせがありました。お一人は「佐川ちか」さん(詩人)余市町生まれで、庁立高等女学校時代の方について、もうお一人は「吉田秀和」さん(音楽家)についての問い合わせが鎌倉市図書館からありました。また、昭和天皇がまだ皇太子だった頃に行啓されたことを記念して設けられた「花園文庫」が書庫に残されていて市立小樽文学館の展示に貸し出したこともあります。伝統校ならではの、と思いました。

などなど、思い出はつきませんがここまで何とか勤めてこられましたのも、周りの皆さまのおかげに他なりません。本当にお世話になりました。これからの桜陽の発展と、皆さまの健康を願っております。ありがとうございました！

部活動大会結果

令和二年度

(文化系)

書道部

高文連後志支部書道展

特選(全道大会出品)

薄井・櫛引・江良

三上・田中



吹奏楽団

定期演奏会開催

美術部

高文連後志支部美術展

全道推薦作品

川口・荒田・松原

佳作

北・齋藤・嶋津

演劇部

高文連後志支部高等学校

演劇発表大会

「隔てよ、乙女。」最優秀賞

全道高等学校演劇発表大会

「隔てよ、乙女。」優良賞

新聞部

全道高等学校新聞コンクール

(高文連・道新共催)

手書き・ワープロ部門出品

高文連全国年間紙面審査賞

出品

写真部

高文連後志支部写真展

優秀賞(全道大会出品)

金本「イルミネーション」

入選(全道大会出品)

内藤「一杯で和む」

「アオハル」

神子田「気の向くままに」

佳作

松原「輝」

松山「海vs人」

三品「よりみち」

山内「妖艶」

中島「日本一」

石井「輝き」

関「歪み」

澤田「小さな守り神」

小林「天からの贈り物」



放送局

高文連後志支部コンテスト

ラジオ番組部門

「散る桜 残る桜も 散る桜」

一位

ビデオメッセージ部門

「ようこそ、お帰りなさい」

一位

アナウンス部門

細羽 一位

牧野 二位

阿部 三位

園部 四位

高文連コンテスト全道大会

ラジオ番組部門

入賞 六位/三十一本中

ビデオメッセージ部門

十三位/三十九本中

アナウンス部門/七十八人中

細羽 十四位

牧野 二十九位

阿部 十位

園部 四十八位

(体育系)

弓道部

小樽市民スポーツ大会

団体

菊池・武蔵・佐藤 準優勝

宮谷内・本間・齋 三位

男子個人

女子個人

男子個人

小樽支部新人大会

男子団体

宮谷内・本間・齋

瀬野尾・工藤

女子団体

菊池・佐藤・和田・武蔵・長濱 優勝

女子個人 武蔵 二位

選抜大会南北北海道地区予選会

女子団体

菊池・武蔵・和田・長濱・柴原 予選敗退

女子個人

武蔵・柴原

予選敗退

ソフトボール部

全道交流戦(高体連代替戦)

小樽桜陽0-10 帯広南商業

全国高等学校選抜大会

北海道予選会

小樽桜陽6-13 岩見沢緑陵

剣道部

小樽支部新人大会

男子団体 三位

杉村・瀬川・大川

女子団体(Ⅱ部) 一位

男子個人

杉村ベスト8

瀬川 二回戦敗退

大川 二回戦敗退

女子個人

村 一回戦敗退

山岳部

スポーツクライミンググリード

ユース日本選手権

北海道予選会

女子ユースA 吉田ゆな 優勝

スポーツクライミンググリード

ユース日本選手権南砺大会

女子ユースA 吉田ゆな 17位

スポーツクライミング

ボルダリングユース

日本選手権葛飾大会

女子ユースA 吉田ゆな 22位



サッカー部

全国高校サッカー選手権大会

北海道大会小樽地区予選会

予選リーグ

桜陽 0・2 小樽潮陵

桜陽 1・5 小樽水産

小樽地区新人ユース大会

予選リーグ

桜陽 3・0 小樽潮陵

桜陽 1・0 北照

準決勝

桜陽 0・1 小樽水産

柔道部

高体連小樽支部秋季新人戦

男子団体 優勝

男子個人

60 kg級 青塚 二位

66 kg級 伊藤 一位

81 kg級 阿部 二位

女子個人

無差別級 成田 一位

浅見 二位

金田 三位

高体連新人戦全道大会

男子個人

66 kg級 伊藤 三回戦敗退

女子団体 一回戦敗退

女子個人

48 kg級 飯野 三位入賞

52 kg級 成田 一回戦敗退

浅見 一回戦敗退

金田 一回戦敗退



ソフトテニス部

新人戦地区大会

個人女子ダブルス

大川・熊谷 堀井・櫻井

佐藤・斉藤 棚田・小林

個人男子シングルス 予選敗退

宇野 二位

個人女子シングルス

大川 熊谷 堀井 櫻井

佐藤 斉藤 棚田 小林

予選敗退

新人戦全道大会

個人男子シングルス

宇野 一回戦敗退

新人戦地区大会(インドア)

個人女子ダブルス

大川・熊谷 堀井・棚田

佐藤・斉藤 櫻井・三島

予選敗退

ボート部

北海道高等学校新人大会

男子シングルスカル

服部 準決勝進出

男子ダブルスカル

向井・前山 決勝三位

卓球部

秋季小樽支部新人大会

男子学校対抗 準優勝

女子学校対抗 優勝

個人女子ダブルス

山本愛莉・寧美組 優勝

個人男子シングルス

和田 準優勝

個人女子シングルス

山本寧美 優勝

山本愛莉 準優勝

北海道高等学校選抜卓球大会

男子学校対抗 二回戦敗退

小樽桜陽1・3 釧路明輝

女子学校対抗 ベスト8

小樽桜陽3・1 札幌光星

小樽桜陽3・1 留萌

小樽桜陽0・3 駒大苫小牧

小樽卓球選手権大会

女子ダブルス

山本愛莉・寧美組 優勝

一般男子シングルス

和田 ベスト8

一般女子シングルス

山本寧美 優勝

山本愛莉 準優勝

テニス部

小樽支部秋季大会

団体戦 男子優勝
個人戦

男子シングルス

庄司 優勝

女子シングルス

細田 優勝

男子ダブルス

庄司・大内 優勝

薮江・本間 三位

北海道高等学校

秋季テニス大会

団体戦

桜陽 0・5 札幌西

二回戦敗退

個人戦

男子シングルス

庄司 一回戦敗退

女子シングルス

細田 一回戦敗退

男子ダブルス

庄司・大内 三回戦敗退

バスケットボール部

高等学校選手権大会

小樽地区予選会

男子 準優勝

女子 準優勝

小樽地区秋季選手権大会

男子 準優勝

女子 一回戦敗退

新人大会小樽地区予選会

男子 準優勝

女子 三位

バドミントン部

後志地区大会(新人戦)

男子ダブルス

山瀬・市川 ベスト8

女子ダブルス

土岐・葛西 ベスト8

三間・前田 ベスト8

秋季選手権大会

男子ダブルス

山瀬・市川 ベスト8

女子ダブルス

土岐・葛西 ベスト8

小林・菅 ベスト8

男子シングルス

市川 四位

男子団体

三位

女子団体

四位

北海道高等学校新人大会

男子団体

札幌南 3・0 桜陽

女子団体

函館大妻 3・0 桜陽

男子シングルス

札幌龍谷 2・0 市川

野球部

夏季野球大会小樽支部大会

一回戦 桜陽 3・5 倶知安

秋季野球大会小樽支部予選

二回戦 桜陽 4・15 小樽潮陵

ラグビー部

北海道高等学校南北選手権大会小樽支部予選

準優勝

桜陽 7・27 小樽潮陵

北海道高等学校新人大会

一回戦

小樽合同 0・63

函館ラサール

順位戦

小樽合同 32・5 根釧合同

バレーボール部

高等学校選手権大会

小樽地区予選会

男子優勝(5年連続15回目)

桜陽 2・0 未来創造

桜陽 2・0 小樽潮陵

女子準優勝

桜陽 2・1 小樽潮陵

桜陽 2・0 未来創造

桜陽 0・2 小樽双葉

高等学校選手権大会

北海道代表決定戦

男子

桜陽 0・2 旭川実業

一回戦敗退

北海道高等学校新人大会

小樽地区予選会

男子

桜陽 0・2 小樽潮陵

桜陽 0・2 未来創造

女子 第三位

桜陽 2・0 未来創造

桜陽 1・2 小樽潮陵

桜陽 0・2 小樽双葉

陸上部

北海道高等学校

新人陸上競技大会

男子

岡 100 m

三宅 400 m

葛西 800 m

佐藤康 400 m H

木下 3000 m SC

佐藤楓 走幅跳

女子

岡本 100 m H

日野 走幅跳

竹内 走高跳

堀 三段跳

諸澤 円盤投

4×100 m R

(日野・岡本・堀・竹内)

